



International Conference on Design for Ocean Environments

## 第一回 国際海洋環境デザイン会議

2022年7月30日（土）スクランブルホール（渋谷キューズ内）にて開催

基調講演：深澤直人

登壇者：we+、大城健作、倉本 仁、Sarah K、土田貴宏、山田泰巨、山野英之



国際海洋環境  
デザイン会議  
DESIGN FOR OCEAN ENVIRONMENTS

「海と人とを学びでつなぐ」をテーマに、2016年の創立以降、海洋教育とデザインを融合し、実践的なプログラムを提供してきた一般社団法人3710Lab [みなとラボ] は、日本財団の助成のもと2022年7月30日（土）、スクランブルホール（渋谷キューズ内）にて「第一回 国際海洋環境デザイン会議」を開催いたします。

このたび発足した「国際海洋環境デザイン会議」では、増え続ける海洋ごみ問題や深刻化する海洋環境問題に対し、“デザイン”の分野からどのようなアクションができるのかを話し合い、具体的アイデアを提案し、教育分野をはじめとする社会への実装を目指すものです。

デザイナー深澤直人氏による基調講演、海をテーマとしたデザインや教育ワークショップの先進事例、アプローチのアイデア、そしてディスカッション。世界を舞台に活躍するデザイナーたちと共に、海について考えていきます。

## 開催概要

- 名称 第一回 国際海洋環境デザイン会議  
International Conference on Design for Ocean Environments
- 開催日 2022年7月30日（土）13:30～16:30（13:00開場、終了時刻は変更になる可能性があります）
- 開催形式 現地開催／オンライン配信あり  
※ご来場いただいた方には、海にまつわるノベルティを差し上げます。  
※オンライン参加の方に、お申し込み後に配信URLをご案内いたします。
- 会場 ス克蘭ブルホール（渋谷キューズ内）  
渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア15階 <https://shibuya-qws.com/about/outline>  
渋谷駅直結・直上/ B2F-2Fのオフィス+QWSエントランスよりエレベーターで15Fへお越しください。
- 入場 無料、定員100名（着席）
- お申込 下記リンクよりお申し込みください。  
<https://bit.ly/3Prtx2W>
- 主催 3710Lab（みなとラボ）
- 助成 日本財団

## 基調講演

- ・深澤直人（プロダクトデザイナー） <https://naotofukasawa.com/>

## 登壇者

- ・we+ 林登志也 安藤北斗（コンテンポラリーデザインスタジオ） <https://weplus.jp/>
- ・大城健作（プロダクトデザイナー） <https://www.kensakuoshiro.com/>
- ・倉本 仁（プロダクトデザイナー） <http://www.jinkuramoto.com/>
- ・supercyclers Sarah K（デザイナー・ファウンダー・キュレーター） <https://www.supercyclers.com/>
- ・土田貴宏（デザインジャーナリスト） <https://www.instagram.com/tt0/>
- ・山田泰巨（編集者・ライター） <https://www.instagram.com/yoshinaoyamada/>
- ・山野英之 / TAKAIYAMA inc.（グラフィックデザイナー） <http://takaiyama.jp/>

## モデレーター

- ・佐藤久美子（3710Lab）
- ・田口康大（3710Lab）

## 本会議開催の目的

海洋環境の課題解決にデザインを活用していくための議論を行うと同時に、社会及び教育現場で具体的にアクションを起こしていくための起点を作る

## 会議のコンテンツ

- ・海洋環境課題へのデザインによる実践事例を世界からレポート
- ・海洋環境課題解決へのデザインによる実践事例の紹介
- ・海洋環境課題を解決に導くための提案
- ・海洋環境課題を取り巻く現状を共有

## その他

\*本イベントは、新型コロナウイルス感染拡大の状況次第では変更となる可能性がありますことをご了承ください。  
\*写真・動画の撮影は可能ですが、フラッシュを使用しての撮影はご遠慮くださいますようお願いいたします。  
\*本イベントでは、主催者による記録・広報等のため、イベントの写真撮影・録画・録音・オンライン配信等を行う場合がございますので、予めご了承ください。

## タイムスケジュール

13:30	開場
13:30 - 13:35	主催挨拶
13:35 - 13:50	活動紹介
13:50 - 14:45	基調講演：深澤直人
14:45 - 15:15	講演：supercyclers Sarah K
15:30 - 15:45	レポート 世界のデザインは海洋問題にどうアプローチしているか：土田貴宏、山田泰巨
15:45 - 16:25	トークセッション 海のためにデザインは何ができるか：we+（林登志也、安藤北斗）大城健作、倉本仁、山野英之
16:25 - 16:30	閉会挨拶

## 関係者プロフィール



### 深澤 直人（ふかさわ なおと）

1956年山梨県生まれ。1980年、多摩美術大学プロダクトデザイン学科卒業。同年 セイコーエプソン入社。先行開発のデザインを担当。1989年渡米し、ID Two (現 IDEO サンフランシスコ) 入社。シリコンバレーの産業を中心としたデザインの仕事に7年間従事した後、1996年帰国。IDEO東京オフィスを立て上げ支社長として日本のデザインコンサルタントのベースをつくる。2003年独立し、NAOTO FUKASAWA DESIGNを設立。現在は、ヨーロッパ、北米、アジアなど世界を代表するブランドのデザインや、日本国内の企業のデザインやコンサルティングを多数手がける。電子精密機器から家具、インテリア、建築に至るまで手がけるデザインの領域は幅広く多岐に渡る。2018年、米ニューヨークのノグチ美術館 (The Noguchi Museum) が創設した第5回「イサム・ノグチ賞」を受賞。多摩美術大学教授。日本民藝館館長。



### we+（ウィープラス）/ 林登志也 安藤北斗

リサーチと実験に立脚した手法で、新たな視点と価値をかたちにするコンテンツデザインスタジオ。林登志也と安藤北斗により2013年に設立。利便性や合理性が追い求められる現代社会において、見落されがちな多様な価値観を大切にしながら、私たちを取り巻く自然や社会環境と親密な共存関係を築くオルタナティブなデザインの可能性を探究しています。近年は、自然とともに暮らしてきた歴史を学び、自然現象の移ろいやゆらぎを生かすことで、自然と人工が融合した新たなもののあり方を模索する「Nature Study」などのリサーチプロジェクトにも力を入れています。



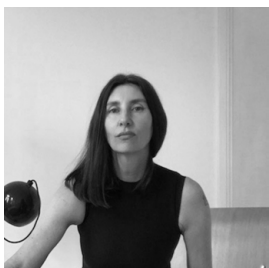
### 大城 健作（おおしろ けんさく）

1977年 沖縄県生まれ。1999年 Scuola Politecnica di Designを卒業。いくつかの建築/デザイン事務所を経て、2004年よりLissoni Associati (Milano)、2012年よりBarberOsgerby (London)に勤務。2015年ミラノにて独立 KENSAKU OSHIROを設立し現在に至る。これまで欧米を中心に業界を引率する企業と数多く協業し、その領域は建築から家具、生活用品全般に至るまで多岐に渡る。Design Report Award 2006, Rising Talent Awards Italy 2018, Wallpaper Design Award 2022など受賞の他、EDIDA 2016 “Young designer talent”、EDIDA 2022 “Designer of the year”にノミネート。



### 倉本 仁（くらもと じん）

1976年兵庫県生まれ。家電メーカーのインハウスデザイナーを経て、2008年に東京目黒に『JIN KURAMOTO STUDIO』を開設。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、ウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイプが行われている自身の“スタジオ”は常にインスピレーションと発見に溢れている。iF Design Award、グッドデザイン賞、Red Dot Design Awardなど受賞多数。2015～2017年グッドデザイン賞審査委員。



### supercyclers（スーパーサイ클ーズ）/ Sarah K

シドニーを拠点に活動するデザイナー。クリエイティブディレクター、キュレーターとしても活躍。2009年、持続可能な未来への探求に焦点を当てたデザインイニシアチブとしてスーパーサイ클ーズを設立。2010年にデザイナーでアーティストとしても活躍するLiane Rosslerと共に、使い捨てビニール袋を素材にしたカップを最初のプロジェクトとして発表する。マリンドペリを素材とした最初のプロダクト「マリンドペリベイクライト 弁当ボックス」を2015年に東京デザインウィークで発表。オランダのデザイナー、カースティ・ヴァン・ノートなど多彩なデザイナーとの協業も行う。またこれまでのサステイナブルデザインの調査結果を活動を提供するオンラインコース「サステイナブルリスト マスタークラス」を開設している。



### 山野英之（やまの ひでゆき）

グラフィックデザイナー。奈良県生まれ。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。2009年、デザイン事務所TAKAIYAMA inc. (高山株式会社) 設立。書籍、広告、ブランドデザイン、建築サインなど、平面から空間まで、グラフィックデザインを軸に活動。

## 3710Lab [みなとラボ] について <https://3710lab.com/>

法人取得日：2016年10月27日 設立日：2015年4月1日

代表理事：田口 康大/東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任講師

2015年、みなとラボは「海洋教育」の新たなプログラムを提供するプラットフォームとして設立。多様な専門家との協働による実践的なプログラムを通して、環境問題や社会課題、地域のコミュニティ課題にも向き合っている。2021年からは、海洋環境デザイン教育プロジェクトを立ち上げ全国にて実施。同年、日本財団と瀬戸内4県とが取り組む海洋ごみ対策プログラム「瀬戸内オーシャンズX」\*の教育部門にてプロジェクトを展開中。

### \*瀬戸内オーシャンズXについて

日本財団と瀬戸内4県（岡山県、広島県、香川県、愛媛県）が、2020年12月に連携協定を締結した海洋ごみ対策の広域モデル構築共同事業。山から海底にまで広がる流域と閉鎖性海域を捉えた対策により、瀬戸内海へのごみの流入量70%減、回収量10%増を達成することを目指している。調査研究、企業・地域連携、啓発・教育・行動、政策形成の4つの活動内容から構成されている。

瀬戸内オーシャンズX <https://setouchi-oceansx.jp>



## 3710Lab [みなとラボ] 代表 田口 康大メッセージ



©TOHRU YUASA

私はこれまで、「海洋教育」という分野で実践研究を行ってきました。活動の意義を強く意識したきっかけは、2014年、東日本大震災に見舞われた宮城県気仙沼市で行われた海との関わりについての市民参加の会議に、パネリストとして招待されたことです。

「防潮堤」の是非についても話が及ぶ中、その場に参加していた子どもたちには、意見が求められませんでした。その後も、各地で、「子どもには難しすぎる」「子どもには触れさせられない」という大人たちの声が聞かれました。

日本の地方では、少子化や高齢化、医療や産業の衰退など、日本が抱える課題が一足先に顕在化しています。それに対し、さまざまな知恵を絞って存続が模索されています。しかしほとんどの場面で、そこに子どものリアルな姿を見ることはありませんでした。

そもそも海について強い関心があったわけではなかった自分が、海洋教育を専門とし、みなとラボを設立するきっかけとなったのは、2011年の「東日本大震災」でした。圧倒的な力でもって命を奪っていく海。人間の技術など一瞬で乗り越えていく大いなる海。この災禍をもたらす海とどう関わって生きていくのか。それは、これまで考え続けてきた「教育とは何か」という問いとともに、自分にとっての大きな問いとなりました。

海は災禍をもたらしもするけど、大きな恩恵を与えてくれ、暮らしを支えてくれています。日常化された恩恵と非日常の災禍。このふたつの面を持つのが「海」です。

しかしながら、学校や社会では、海について学ぶことも、海とのつながりについて考え、想像する機会もありません。海に囲まれて暮らしながら、海とのつながりは希薄なものになっています。

さらには、海洋ごみや地球温暖化など海洋に関連する問題が日常生活を脅かしはじめている現在、「海とどう生きるのか」について考える場を、社会の中につくる必要性を感じています。

「海洋環境デザイン会議」はそれに向けた挑戦です。今まで「教育」を軸に取り組んできたことを、より強く深くするためにも、「デザイン」の力が重要であると考えています。教育とデザインとが組み合わせることが、海と生きていく上で不可欠であるのではないかと直感しています。

海と人とのつながりを学び探ることは、魅力的で楽しく、それ自体、私たちがあらためて海とつながっていく営みなのだと思っています。その絶えざる営みこそが、海と生きるということの「デザイン」でもあるのだろうと、私は考えています。

「海洋環境デザイン会議」を起点に、私たちと海とのこれからの関わりを、みなさんと一緒に形作っていきたくと思っています。

掲載に関するお問合せ先：HOW INC.

MAIL. [pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp) TEL. 03-5414-6405

お客さまお問合せ先：3710Lab

<https://3710lab.com/>

MAIL. [info@3710lab.com](mailto:info@3710lab.com) TEL. 080-5022-0152 (担当・佐藤)